

そなえあれば

うれいなし

西淀 防災Times

Vol. 7 11月21日 担当:安東、國方

防災教育へのご協力ありがとうございました!

9月5日に実施した防災教育へのご協力ありがとうございました。本校は今回で3度目の実施となりましたが、今年度は実際にグラウンドへ避難したり、本校の担架を活用して実際に移動したりといった、体験的な活動を取り入れている学年が多くみられました。児童生徒だけではなく、先生方も一緒に防災について考えるきっかけとなり、実りある学習になったのではないかと思います。『西淀防災 Times Vol.7』では、戦前戦中に小学校(5年生)の教科書に登場し不朽の防災教育の名作である『稲むらの火』と、事後アンケートによるご意見を紹介します!

稲むらの火

『稲むらの火』という話を聞いたことがありますか?

1854年の11月5日に起こった安政南海地震(M8.4)では、紀伊国広村(現在の和歌山県有田郡広川町)が津波に襲われました。そのとき機転をきかせて村人たちが救った浜口梧陵(儀兵衛)さんをモデルにした物語が、『稲むらの火』です。ラフカディオ・ハーン(小泉八雲。怪談話で有名)が英語で創作し、中井常蔵が翻訳・再話したものです。1937年から約10年間、国定教科書の国語教材として使われていました。そのあらすじとは...



江戸時代のお話。広村という小さな村に五兵衛というおじいさんが住んでいました。五兵衛さんの家は海を見下ろす小さな高台の端に建っていました。

ある秋の夕方、五兵衛さんは微かに地面が揺れるのに気づきました。長い、のろい、ふんわりとした地震でしたので、村の人たちは何事もなかったかのように過ごしています。五兵衛さんがなんとなく海を見ると、波が沖のほうへ退いていき、海の底が現れました。

五兵衛さんは自分のおじいさんから子どもの頃に聞いた話を思い出します。五兵衛さんはたいまつに火を着けると、田んぼにある稲むらに火を着けはじめました。とても大切な、米の付いた稲むらです。山寺の小僧が火に気づき早鐘を鳴らしました。この音を聞いて高台の火に気づいた村人たちは、慌てて高台に上ってきました。しかし、集まった村人たちは、何が起こったのかわかりませんでした。そのとき、巨大な津波がやってきて、村は瞬く間に消えてなくなってしまうました。それを知らせるために稲に火をつけたのだと気づいた人々は、五兵衛さんの前にひざまずき、深々と頭を下げました。

物語はここで終わっているのですが、その後の実話がまた、驚くべきものでした。津波の後、梧陵さんは炊き出しや食糧確保など、被災した村人の救援活動に奔走します。現在の銚子市でははじめた醤油づくりで得た私財を投じ、「仮設住宅」の設置や失業対策まで…「生きる希望」を取り戻すことが復興なのだ、ちゃんと知っていたのですね。さらには、防風林を植え、防波堤を建設。のちの昭和南海地震津波では、この堤防により多くの住民の命が守られたそうです。このような復興への取り組みの姿勢も、『稲むらの火』が注目されている理由のひとつなのですね。興味のある先生は絵本や紙芝居もあるので一度読んだり、防災教育の教材として活用してみたりしてください。

裏面あり

防災教育の事後アンケートより

アンケートでいただいたご意見を一部紹介しつつ、係でまとめましたのでお伝えします！



<授業について>

- ・大阪も地震だけでなく水害の危険性は大きいがあるので、西淀川区では最大5mの浸水が予想されると考えると、どのような内容が必要なのかを精査して伝えていくことが必要だと思います。映像で津波や水害の怖さについて伝えていくのは大事かなと思いました。
- ・地震の揺れを体感するなどできたらなと考えます。
- ・避難所での生活をイメージした学習。(どんな生活をしないとイケないかなど)

授業に関しては、災害を映像で見る、避難方法を知るといったご意見が多数でした。また、二次避難先(千船病院や西淀工場)での生活をイメージした学習のご意見もありました。避難所での生活に関しては、毎年4月に教員実働訓練で子どもたちがいることを想定して西淀工場へ行きます。その際に、避難ではどんな物品が必要となるのか等も児童生徒と一緒に学ぶのも良いかもしれませんね。

<備蓄食について>

- ・初めてペースト食を食べる生徒が「意外と美味しい」と言っていたので、必要な指導と思います。
- ・苦手そうだった。それがわかるだけでも良い。
- ・普通食を喫食している生徒については、ペースト状のものをあまり食べる機会がなかったのか、少し食べにくそうにしていたが、かなりよく食べていた。

本校では、「なめらかおかゆ」「おいしくミキサー(いわしの梅煮、照り焼きチキン)」、「野菜ジュース」を備蓄食とし、どの児童生徒も食べられるようにペースト状のものを購入しています。児童生徒の中には初めてペースト食を食べた人もいたかもしれませんね。防災教育の時に備蓄食を喫食している様子を見ておくことで、もし避難先で備蓄食を喫食する場面になったときにイメージができたのではないかと思います。

<災害時、喫食の際に必要な物品について>

- ・紙皿
- ・紙コップ
- ・喫食後の食器等の汚れを拭き取るもの
- ・ラップ
- ・ウエットティッシュ
- ・とりみ剤
- ・スタンド(備蓄食を立てるため) など



紙皿と紙コップ、ウエットティッシュのご意見が最も多かったです。また、衛生面を考えてラップや喫食後の食器等についての汚れを拭き取るものが必要だご意見をいただいた方もいらっしゃいました。これらの物品を防災袋などに入れるのか、防災PTと検討していきたいと思っています。

<その他>

- ・手まわし発電機が劣化により使いにくかった。など

今年度も多くの学年・グループで本校の防災グッズを使った活動に取り組んでいました。実際に防災グッズを扱うことによって、どの場面で使用するのか、どのようにして子どもたちに使うか等をイメージしながら取り組めたのではないかと思います。手まわし発電機については、より使いやすい物を防災PTにて購入を検討しています。

さいごに

今回の西淀防災Timesでは、『稲むらの火』と防災教育の事後アンケートによるご意見を紹介しました。防災教育の授業を担当していただいた先生方、ご協力ありがとうございました。今年度の防災に関する取り組みも残り少なくなってきましたが、次は11月27日(月)に防災PT主催の地震津波避難訓練があります。実際に児童生徒がいる状況で避難をしますが、実際の災害時には、想定しなかった事態が起こることもあります。訓練時にいろんなことを想像し、気づいたことを皆さんで今後共有できたらと思います。先生方皆様のご協力が必要なのでよろしくお願いします。